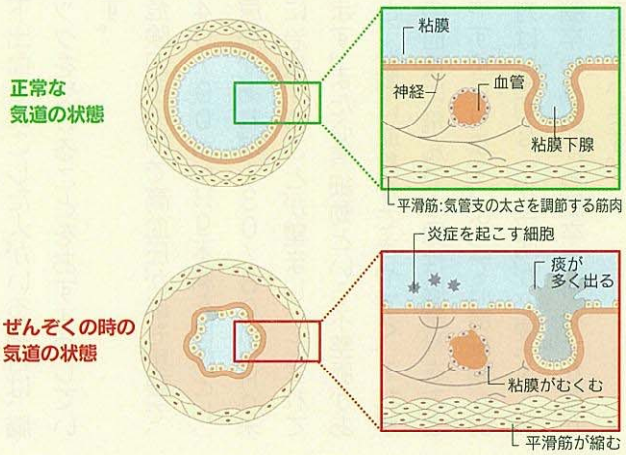
特集 ぜんそくとは…？

気管支喘息は、気道（空気の通り道）に慢性的な炎症が起きるために、気道が狭くなる病気です。

喘息の人の気道では、炎症により気道の粘膜に変化が起きていて、色々な刺激（タバコの煙、ハウスダスト、かぜなど）により気道が狭くなって息苦しくなったり、咳が止まらなくなったりします。



どのような症状がありますか？

- 頑固な咳が続いたり（2週間以上）、呼吸がゼーゼーして息苦しい。
- 静かにしているとあまり感じなくても、少し早めに歩くと息苦しい。
- 夜明けに咳や息苦しさで目が覚める。
- 横になっているときよりも、座っている方が息がしやすい。

このような症状があれば、喘息である可能性が高いので、医療機関を受診することをお勧めします。

病院ではどのような検査をするのですか？

一般的には病気の原因の検査を含め、一般的な血液検査や胸部レントゲン検査の他に、アレルギーの検査などを行います。必要に応じて呼吸機能検査や気道過敏性の検査を行うことがあります。

喘息は治らない？

これまでの喘息の治療は、発作が出たらそれを抑えるという様な治療でした。発作は喘息の悪化につながりますので、できるだけ起こさないようにする必要があります。喘息は慢性の病気ですので、現代の医療でも完全に治すことは難しい病気です。

しかし、殆どの場合、喘息はコントロールすることが可能です。うまくコントロールさえすれば、全く健常な人と同じように生活し、社会活動をすることが可能です。またスポーツをしたり、女性であれば妊娠・出産も十分可能です。

すなわち、喘息はコントロールすることが大事な病気ということです。症状が軽快・消失したからといっても気道の炎症は慢性的に続いていますので、自己判断で治療を中止せず、医師の指示に従って長期にわたって管理する必要があります。

また、発作が起きた場合でも、早くに治療すれば大事に至らずに済みます。

喘息の治療には、どういうものがあるのですか？

喘息の治療に使われる薬は、急性発作に用いる発作治療薬（リリーバー）と、発作の予防および長期管理するための治療薬（コントローラー）に分けられます。

1 リリーバー（発作治療薬）

発作を速やかに抑えるために、症状があるときだけ使用する薬です。短時間作用型のβ2刺激薬（吸入、内服薬、注射）、ステロイド薬（注射、内服薬）、アミノフィリン注射などが含まれます。

2 コントローラー（長期管理薬）

気道の炎症を抑える、あるいは気管支を長時間拡げることによって、発作のない状態を維持するための薬です。症状や発作がなくても、毎日規則正しく使用する必要があります。吸入のステロイド薬が代表ですが、経口のステロイド薬、徐放性テオフィリン薬、長時間作用型β2刺激薬（吸入、経口、貼付）、抗アレルギー薬などが含まれます。

一般にはゼーゼー言わないから、家族に喘息の人が誰もいないから、などの理由で、喘息ではないと思っている患者様を多く見受けます。しかし、実際にはアレルギー疾患の増加に伴い、程度の差はあるにせよ喘息の患者様は数多く存在するように思われます。疑問があるようでしたら、気軽に医療機関を受診することをお勧めいたします。

佐賀県立病院好生館　内科　富永 正樹

発行／佐賀県医師会
〒849-8514 佐賀県佐賀市新中町２番15号 佐賀県医師会 メディカルセンター TEL 0952-33-1414 FAX 0952-33-0102
●URL：http://www.saga.med.or.jp ●E-mail：sma@saga.med.or.jp